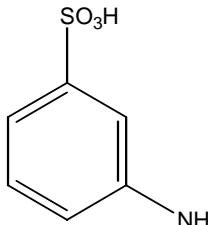


既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-1971	CAS No.	121-47-1		
判定結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されな い				
名称 構造式等 用途 製造等 実績数量 外観 溶解度	名称： 3 - アミノベンゼンスルホン酸 				
分解性	難分解性				
蓄積性	高濃縮性でない				
Ames	陰性 純度 98.6 % . 溶媒 (DMSO - 溶解) . プレート法 . TA98 , TA100 , TA1535 , TA1537 , WP2 uvrA . (本試験 ,) - S9mix 群 : 5000 μ g/plate + S9mix 群 : 5000 μ g/plate (最高用量で被験物質の析出) (本試験) + S9mix 群 : 5000 μ g/plate (TA1537)				
染色体 異常	陽性 D20 値 = 1.1mg/mL (+S9mix 群 : 構造異常) +S9mix 群において構造異常の誘発 . 純度 98.6 % . 溶媒 (0.5% CMC Na 水溶液 - 溶解) . CHL/IU . 5.0 mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施 . (本試験) - S9mix 群 : 4.4 mg/mL (細胞毒性のため 1.1 mg/mL まで観察) + S9mix 群 : 4.4 mg/mL (細胞毒性のため 1.1 mg/mL まで観察) 24 時間処理群 : 1.7 mg/mL (細胞毒性のため 0.85 mg/mL まで観察) 48 時間処理群 : 1.7 mg/mL (細胞毒性のため 0.85 mg/mL まで観察) (確認試験) - S9mix 群 : 1.65 mg/mL (細胞毒性のため 0.83 mg/mL まで観察) + S9mix 群 : 1.65 mg/mL (細胞毒性のため 0.83 mg/mL まで観察)				
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 0.5%CMC 水溶液			
	純度	98.6%			
	用量	3 投与群(100, 300, 1000 mg/kg/day)			
	死亡	-			
	NOEL	300 mg/kg/day			
	推定根拠	尿 pH 低下(1000)、飲水量 (1000)			
	他の毒性	-			
回復性	問題なし				
人健康影 響判定根 拠	染色体異常試験は陽性であるが、Ames 試験は陰性、NOEL300mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない。				
環境調査	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界

1	水質	S56	0/6		60(μg/L)
	底質	S56	0/6		0.5(μg/g-dry)
	魚類				
備考	1 S57版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)				

既存化学物質審査シート

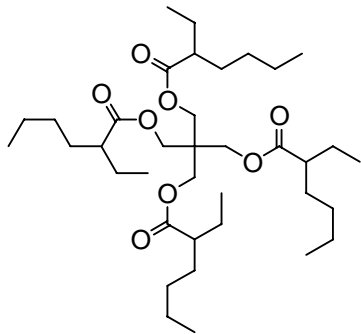
官報公示 整理番号	2-1167	CAS No.	526-78-3
判定結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない		
名称 構造式等	名称：2,3-ジブロモコハク酸 $\begin{array}{c} \text{Br}-\text{CHCOOH} \\ \\ \text{Br}-\text{CHCOOH} \end{array}$		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 98% . 溶媒 (アセトン - 溶解) . プレート法 . TA98 , TA100 , TA1535 , TA1537 , WP2 uvrA . (本試験 ,) - S9mix 群 : 5000 μ g/plate (最高用量で菌の生育阻害) + S9mix 群 : 5000 μ g/plate		
染色体 異常	陰性 純度 98% . 溶媒 (アセトン - 溶解) . CHL/IU . 2.8 mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施 . - S9mix 群 : 2.8 mg/mL + S9mix 群 : 2.8 mg/mL (細胞毒性のため 1.4 mg/mL まで観察) 24 時間処理群 : 1.3 mg/mL 48 時間処理群 : 1.3 mg/mL		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 0.5%CMC-Na 水溶液	
	純度	99.8%	
	用量	3 投与群(20, 140, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	1000 mg/kg/day	
	推定根拠	全群で特に毒性学的影響は認められていない	
	他の毒性 回復性	特になし 問題なし	
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL1000mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない。		
備考			

既存化学物質審査シート

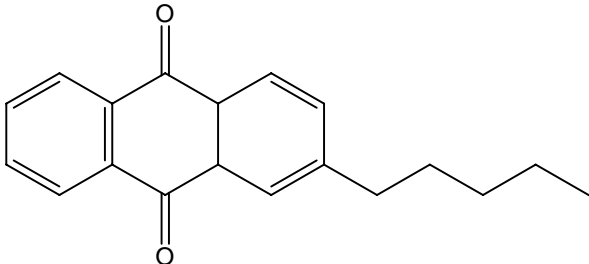
官報公示 整理番号	2-32	CAS No.	7756-94-7
判定結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない		
名称 構造式等	<p>名 称： トリイソブチレン</p> $ \begin{array}{ccccccc} & \text{CH}_3 & & \text{CH}_3 & & \text{CH}_3 & \\ & & & & & & \\ \text{H}_3\text{C} & - \text{C} & - & \text{C} & - & \text{C} & = \text{CH}_2 \\ & & & & & & \\ & \text{CH}_3 & & \text{CH}_3 & & & \\ & & & \text{H}_2 & & \text{H}_2 & \end{array} $		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性</p> <p>純度 99.13 % . 溶媒 (アセトン - 溶解) . プレート法 . TA98 , TA100 , TA1535 , TA1537 , WP2 uvrA . (本試験) - S9mix 群 : 5000 μ g/plate (1250 μ g/plate 以上で被験物質の析出) + S9mix 群 : 5000 μ g/plate (TA100 : 最高用量で菌の生育阻害、 TA98, TA1535, TA1537, WP2uvrA : 1250 μ g/plate 以上で被験物質の析出) (本試験) - S9mix 群 : 5000 μ g/plate (TA98, TA100, TA1535, TR1537 : 最高用量で菌の生育阻害、 WP2uvrA : 625 μ g/plate 以上で被験物質の析出) + S9mix 群 : 5000 μ g/plate (最高用量で菌の生育阻害)</p>		
染色体 異常	<p>陰性</p> <p>純度 99.13 % . 溶媒 (アセトン - 溶解) . CHL/IU . 1.7 mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施 . - S9mix 群 : 0.0042 mg/mL + S9mix 群 : 1.70 mg/mL 24 時間処理群 : 0.021 mg/mL 48 時間処理群 : 0.021 mg/mL</p>		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	
	純度	>99%	
	用量	3 投与群(30, 150, 750 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	30 mg/kg/day	
	推定根拠	血液学的検査(RBC : 150 以上) 相対重量(肝 : 150以上 ・750 、腎 : 150以上) 組織学的所見(肝 - 肝細胞腫脹 : 150以上 、 腎 - 好酸性小体 : 150以上)	
他の毒性	血液生化学的検査(Crn : 750 、 Alb : 750) 尿検査(尿量 ・尿比重 : 750) 絶対重量(肝 : 750 、腎 : 750)		
回復性	問題なし		

人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL30mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない。
備考	

既存化学物質審査シート

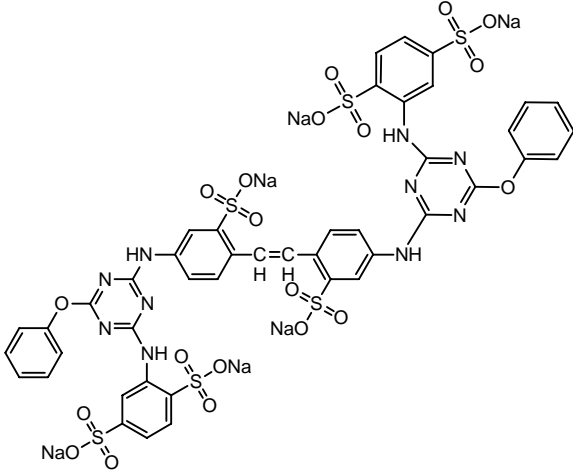
官報公示 整理番号	2-642、2-649、2-661	CAS No.	7299-99-2
判定結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない		
名称 構造式等	名 称：ペンタエリスリトールテトラ（2-エチルヘキサノアート） 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 98.4% . 溶媒（アセトン - 溶解）. TA98 , TA100 , TA1535 , TA1537 , WP2 uvrA . - S9mix 群：2500 μ g/plate（1250 μ g/plate 以上で被験物質の析出） + S9mix 群：2500 μ g/plate（1250 μ g/plate 以上で被験物質の析出） （確認試験） - S9mix 群：2500 μ g/plate（TA1535：1250 μ g/plate 以上で被験物質の析出）		
染色体異常	陰性 純度 98.4% . (脱水エタノール - 溶解) . CHL/IU . 5.0mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施 . - S9mix 群：5.0mg/mL（全用量で被験物質の析出） + S9mix 群：5.0mg/mL（全用量で被験物質の析出） 24 時間処理群：5.0mg/mL（全用量で被験物質の析出）		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	
	純度	96.4%	
	用量	3 投与群(100, 300, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	反復投与毒性：1000 mg/kg/day 生殖発生毒性：1000 mg/kg/day	
	推定根拠	反復投与毒性： 全群で特に毒性学的影響は認められていない。 生殖発生毒性： 全群で特に毒性学的影響は認められていない。	
他の毒性	-		
回復性	問題なし		
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL1000mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない。		
備考			

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-687	CAS No.	13936-21-5
判定結果	人健康影響 人健康影響に係る被験物質が 2-ペンチルアントラキノンではなく、2-(1,1-ジメチルプロパノール)アントラキノン及び 2-(1,2-ジメチルプロパノール)アントラキノンの混合物であるため、2-ペンチルアントラキノンについては判定できない		
名称 構造式等	名 称： 2-ペンチルアントラキノン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陽性 比活性値：423rev/mg (+S9mix 群 TA1537) +S9mix 群の TA1537 で対照の 2 倍を超える変異コロニーの誘発 純度 98.6% . 溶媒 (DMSO - 溶解). TA98 , TA100 , TA1535 , TA1537 , WP2 uvrA . (本試験) - S9mix 群：5000 μ g/plate (全用量で被験物質の析出) + S9mix 群：5000 μ g/plate(全用量で被験物質の析出) (本試験) - S9mix 群：5000 μ g/plate (全用量で被験物質の析出) + S9mix 群：5000 μ g/plate(全用量で被験物質の析出)		
染色体 異常	陽性 D20=0.098 mg/mL(+ S9mix 群：構造異常) + S9mix 群で構造異常及び数的異常の誘発 純度 98.6% . 溶媒 (アセトン - 溶解). CHL/IU . 2.8 mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験結果を参考に以下の濃度まで実施 - S9mix 群：0.06 mg/mL (50%以上細胞増殖抑制濃度) + S9mix 群：0.09 mg/mL(細胞毒性のため 0.06 mg/mL まで観察)		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	
	純度	98.6%	
	用量	3 投与群(3.75, 15, 60 mg/kg/day)	
	死亡	予備試験：1000：1/3 ・1/3	
	NOEL	3.75 mg/kg/day	
	推定根拠	血液学的検査(PT : 15 以上)	
	他の毒性	血液学的検査(RBC Hgb : 60) 絶対重量(肝 : 60) 相対重量(肝 : 60) 組織学的所見(肝 - 小葉中心性肝細胞肥大：60)	
回復性	問題なし		

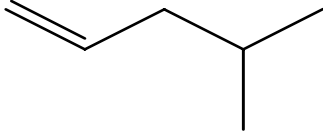
人健康影響判定根拠	人健康影響に係る被験物質が 2-ペンチルアントラキノンではなく、2-(1,1-ジメチルプロパノール)アントラキノン及び 2-(1,2-ジメチルプロパノール)アントラキノンの混合物であるため、2-ペンチルアントラキノンについては判定できない。
備考	<p>2-(1,1-ジメチルプロパノール)アントラキノン (CAS No. 32588-54-8) 及び 2-(1,2-ジメチルプロパノール)アントラキノン (CAS No. 68892-28-4) の混合物 (混合比率は 4 (CAS No. 32588-54-8) : 1 (CAS No. 68892-28-4)) を被験物質とした試験結果</p> <p>平成 18 年 10 月 27 日に開催された 3 省合同審議会において、2-ペンチルアントラキノンは第二種監視化学物質相当と判定されたが、その後、人健康影響に係る被験物質が 2-(1,1-ジメチルプロパノール)アントラキノン (CAS No. 32588-54-8) 及び 2-(1,2-ジメチルプロパノール)アントラキノン (CAS No. 68892-28-4) の混合物 (混合比率は 4 (CAS No. 32588-54-8) : 1 (CAS No. 68892-28-4)) であることが判明した。</p>

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-4870	CAS No.	41267-43-0
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名 称：C.I.フルオレセントブライトナー271</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性</p> <p>純度 91.0%。(不純物：NaCl：0.32%、Na₂SO₄：0.01%、水：6.3%、不明成分：2.37%(各成分 1%未満) 溶媒(注射用水 - 溶解)。 * 純度換算あり</p> <p>TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA .</p> <p>- S9mix 群：5000 μg/plate*</p> <p>+ S9mix 群：5000 μg/plate*</p>		
染色体異常	<p>陽性</p> <p>D20 = 11.6mg/ml (- S9mix 群：構造異常) * 純度換算あり</p> <p>- S9mix 群で構造異常の誘発 .</p> <p>純度 91.0%。(不純物：NaCl：0.32%、Na₂SO₄：0.01%、水：6.3%、不明成分：2.37%(各成分 1%未満) (生理食塩水 - 溶解) . CHL/IU .</p> <p>5.0mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施 .</p> <p>- S9mix 群：5.0mg/mL*</p> <p>+ S9mix 群：5.0mg/mL*</p> <p>24 時間処理 2 時間回復群：1.25mg/mL (細胞毒性のため 0.625mg/mL まで観察)</p>		
反復経口投与 毒性・生殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：注射用水	
	純度	91.0% (不純物：NaCl：0.32%、Na ₂ SO ₄ ：0.01%、水：6.3%、不明成分：2.37%(各成分 1%未満))	
	用量	3 投与群(20, 60, 200 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	反復投与毒性：<20 mg/kg/day 生殖発生毒性：60 mg/kg/day	
推定根拠	<p>反復投与毒性：</p> <p>組織学的所見(腎 - 近位尿細管上皮空胞変性：20 以上)</p> <p>生殖発生毒性：</p> <p>体重[生後 0 日] : 200</p>		

他の毒性	<p>反復毒性</p> <p>体重 : 200 摂餌量 : 200 血液学的検査(MCH : 60以上、RET : 200、Hct・Hgb・RBC・MCV・PLT・APTT : 200) 血液生化学的検査(Crn・K : 200、Cho・Pi・Na : 200、Glu・Cho・BUN・AST・ALT・Alp・-GTP : 200) 尿検査(尿量 : 200、尿Na・尿Cl・尿蛋白・尿糖 : 200) 絶対重量(腎 : 200) 相対重量(腎 : 200、肝 : 200、脾・精巣 : 200) 組織学的所見(骨髄 - 顆粒球系造血亢進 : 200、脾 - ゾ胞増生 : 200、腎 - 集合管上皮肥大・ハル係蹄尿細管上皮肥大 : 60以上、硝子円柱・尿細管拡張・近位尿細管上皮壊死・再生尿細管・リンパ球浸潤 : 200、鉍質沈着 : 200、肝 - 微小肉芽腫 : 200)</p> <p>回復期</p> <p>-GTP・Hct・Hgb・RBC・WBC・PLT・BUN・-GTP・Cho : 200、ALT : 200、腎 - び慢性線維化 : 200、骨髄 - 赤芽球系造血低下 : 200</p>
回復性	<p>Hct・Hgb・RBC・PLT、CRN・Na・K、脾・腎・精巣、腎 - 硝子円柱・近位尿細管空胞変性・尿細管拡張・再生尿細管・リンパ球浸潤・集合管上皮肥大・ヘンレ係蹄尿細管上皮肥大</p>
人健康影響判定根拠	<p>Ames 試験は陰性、染色体異常試験は軽微な陽性であるが、NOEL20mg/kg/day 未満であることから第二種監視化学物質相当。</p>
備考	<p>被験物質中に 2.37%の不明成分(各成分 1%未満)が含まれていることから、不純物の試験結果への影響を懸念するコメントがなされた。 (最終的には本試験データは評価可能と判断した。)</p>

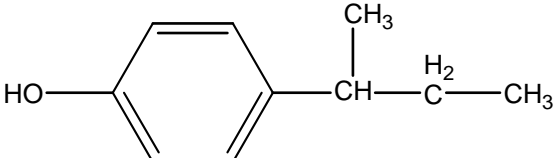
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-22 2-31	CAS No.	691-37-2
判定結果	<p>人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない</p> <p>生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない【判定済み】</p>		
名称 構造式等	<p>名称：4-メチル-1-ペンテン</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性 純度 98.36%以上 . 溶媒 (DMSO - 溶解). 3000 μ g/plate(調製限界)まで実施した細胞増殖抑制試験結果を参考に以下の濃度まで実施 TA98 , TA100 , TA1535 , TA1537 , WP2 uvrA .</p> <p>本試験</p> <ul style="list-style-type: none"> - S9mix 群 : 3000 μ g/plate (TA98,TA100, WP2 uvrA : 1500 μ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA1535, TA1537 : 750 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) + S9mix 群 : 3000 μ g/plate (TA98,TA100, WP2 uvrA : 1500 μ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA1535, TA1537 : 750 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) <p>本試験</p> <ul style="list-style-type: none"> - S9mix 群 : 3000 μ g/plate (TA100, WP2 uvrA : 1500 μ g/plate 以上で菌の生育阻害、 TA98,TA1535, TA1537 : 750 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) + S9mix 群 : 3000 μ g/plate (WP2 uvrA : 1500 μ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA98, TA100,TA1535, TA1537 : 750 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) 		
染色体 異常	<p>陰性 純度 98.36% . 溶媒 (DMSO - 溶解). CHL/IU . 0.3mg/mL(調整限界)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施 .</p> <ul style="list-style-type: none"> - S9mix 群 : 0.15mg/mL(50%以上細菌増殖抑制濃度) + S9mix 群 : 0.3mg/mL (細胞毒性のため 0.261mg/mL まで観察) 24 時間処理群 : 0.15mg/mL (50%以上細菌増殖抑制濃度) 		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：トウモロコシ油	
	純度	98.36%	
	用量	3 投与群(40, 200, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	反復投与毒性：200 mg/kg/day 生殖発生毒性：200mg/kg/day	

	推定根拠	反復投与毒性： 血液生化学的検査(BUN : 1000) 生殖発生毒性： 体重[生後1日] : 1000
	他の毒性	反復投与毒性： - 回復期： 血液生化学的検査(CRN ・ Cl : 1000) 生殖発生毒性： -
	回復性	問題なし
備考	ReproTox 試験の組織学的所見における近位尿細管上皮硝子滴及び好酸性小体は、免疫組織学的検査により、 α_2 -グロブリンの陽性反応が確認されており、雄ラットが特異的に産生する α_2 -グロブリンと化学物質複合体の蓄積により発現すると判断されることから、毒性として評価しなかった。	
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL200mg/kg/day であることから、第二種監視化学物質相当ではない。	
藻類生長阻害 【審議済み】	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養（密閉系） 純度： 98% 試験濃度： 設定濃度 0.12 mg/L（限度試験） 実測濃度 0.0074 mg/L（幾何平均値） 助剤： DMF 100 μ L/L 0-72hErC50（実測値に基づく）>0.0074 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）=0.0074mg/L（限度試験濃度で影響が認められなかった）	
ミジンコ急性遊泳阻害 【審議済み】	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 半止水式、24 時間後に換水 純度： 98% 試験濃度： 設定濃度 0.12 mg/L（限度試験） 実測濃度 0.082 mg/L（幾何平均値） 助剤： DMF 100 μ L/L 48hEiC50（実測値に基づく）>0.082 mg/L	
ミジンコ繁殖阻害 【審議済み】	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 純度： 98% 試験濃度： 設定濃度 0.15 mg/L（限度試験） 実測濃度 0.098 mg/L（時間加重平均値） 助剤： DMF 100 μ L/L 21dNOEC（実測値に基づく）>0.098 mg/L（限度試験濃度で影響が認められなかった）	
魚類急性毒性 【審議済み】	生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 純度： 98% 試験濃度： 設定濃度 0.12 mg/L（限度試験） 実測濃度 0.076 mg/L（幾何平均値） 助剤： DMF 100 μ L/L 96hLC50（実測値に基づく）>0.076 mg/L（限度試験濃度で影響が認められなかった。）	

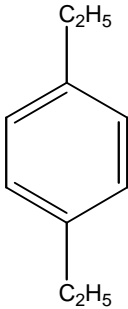
生態影響 判定根拠	3種の急性毒性試験及びミジンコ繁殖阻害試験において、試験上限濃度で影響が認められないことから、第三種監視化学物質相当でない。
備考	対水溶解度：0.11mg/L

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-503	CAS No.	99-71-8
判定結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されな い 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：4 - (1 - メチルプロピル) フェノール 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 66 % (不純物：3 - (1 - メチルプロピル) フェノール) . 溶媒 (DMSO - 溶解) . プレート法 . TA98 , TA100 , TA1535 , TA1537 , WP2 uvrA . 5000 μ g/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に以下の濃度まで実施 . (本試験 ,) - S9mix 群：200 μ g/plate (最高用量で菌の生育阻害) + S9mix 群：400 μ g/plate (最高用量で菌の生育阻害)		
染色体 異常	陰性 純度 66 % (不純物：3 - (1 - メチルプロピル) フェノール：33%) . 溶媒 (DMSO - 溶解) . CHL/IU . 1.5 mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施 . - S9mix 群：0.049 mg/mL (細胞毒性のため 0.025 mg/mL まで観察) + S9mix 群：0.067 mg/mL (細胞毒性のため 0.034 mg/mL まで観察) 24 時間処理群：0.049 mg/mL 48 時間処理群：0.049 mg/mL		
小核試験 (in vitro)	陰性 純度 66 % (不純物：3 - (1 - メチルプロピル) フェノール) . 溶媒 (DMSO - 溶解) . CHL/IU . + S9mix 群：0.049 mg/mL 48 時間処理群：0.049 mg/mL 染色体異常試験の確認試験として実施		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：ゴマ油	
	純度	66 % (不純物：メタセカンダリーブチルフェノール：33%)	
	用量	3 投与群 (100, 300, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	本試験 1000：1/10 ・1/10	
	NOEL	100 mg/kg/day	
推定根拠	組織学的所見(前胃 - 粘膜上皮び慢性過形成：300 以上 ・1000 、 腎 - 腎乳頭壊死：300 以上 ・1000 、 腎乳頭先端部間質エオジン淡染物：300 以上)		

	<p>他の毒性</p> <p>体重 (1000)</p> <p>尿検査(尿量 : 1000)</p> <p>血液学的検査(PT : 1000)</p> <p>血液生化学的検査(-GTP : 1000 、 Glu · Na · K · -GTP : 1000 、 GOT : 1000)</p> <p>相対重量(肝 : 1000)</p> <p>組織学的所見(腎 - 集合管拡張・腔内エオジン染色物 : 1000 、 腎盂粘膜過形成・リンパ球浸潤 : 1000)</p>
	<p>回復性</p> <p>Glu 、 Na</p>
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性(染色体異常試験と同一条件下での in vitro 小核試験は陰性) NOEL100mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当ではない
藻類生長阻害	<p>生物種 : <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i></p> <p>試験法 : 化審法 TG</p> <p>培養方式 : 振とう培養</p> <p>純度 : 100%</p> <p>試験濃度 : 設定濃度 0.10、0.22、0.46、1.0、2.2、4.6、10 mg/L</p> <p>実測濃度 0.090、0.21、0.44、0.96、2.2、4.5、9.7 mg/L (幾何平均値)</p> <p>助剤 : なし</p> <p>0-72hErC50 (実測値に基づく) = 7.5 mg/L</p> <p>0-72hNOECr (実測値に基づく) = 0.44 mg/L</p>
ミジンコ急性遊泳阻害	<p>生物種 : オオミジンコ <i>Daphnia magna</i></p> <p>試験法 : 化審法 TG</p> <p>試験方式 : 止水式</p> <p>純度 : 100%</p> <p>試験濃度 : 設定濃度 1.0、1.8、3.2、5.6、10 mg/L</p> <p>実測濃度 1.1、1.9、3.4、5.9、11mg/L (算術平均値)</p> <p>助剤 : なし</p> <p>48hEiC50 (実測値に基づく) = 3.1 mg/L</p>
魚類急性毒性	<p>生物種 : ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i></p> <p>試験法 : 化審法 TG</p> <p>試験方式 : 半止水式、48 時間後に換水</p> <p>純度 : 100%</p> <p>試験濃度 : 設定濃度 0.68、1.0、1.5、2.2、3.2 mg/L</p> <p>実測濃度 0.61、0.93、1.4、2.2、3.2 mg/L (時間加重平均値)</p> <p>助剤 : なし</p> <p>96hLC50 (実測値に基づく) = 2.6mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。</p> <p>2.2 mg/L 群 : 上層浮遊 (24hr 1/8)</p>
生態影響判定根拠	魚類急性毒性試験において 96hLC50 = 2.6mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	対水溶解度 : 960mg/L (25) (SRC PhysProp Database)

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-13	CAS No.	105-05-5
判定結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されな い 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称	名称：1,4-ジエチルベンゼン <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 97.0% . 溶媒 (アセトン - 溶解) . プレート法 . TA98 , TA100 , TA1535 , TA1537 , WP2 uvrA . 5000 μ g/plate まで実施した用量設定試験を参考に以下の濃度まで実施 . (本試験) - S9mix 群 : 78.12 μ g/plate (39.06 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) + S9mix 群 : 78.12 μ g/plate (TA98, TA1537, WP2uvrA : 39.06 μ g/plate 以上で菌の生育阻害 TA100, TA1535 : 最高用量で菌の生育阻害) (本試験) - S9mix 群 : 78.12 μ g/plate (39.06 μ g/plate 以上で菌の生育阻害) + S9mix 群 : 78.12 μ g/plate (最高用量で菌の生育阻害)		
染色体 異常	陰性 純度 97.0% . 溶媒 (アセトン - 溶解) . CHL/IU . 1.3 mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施 . - S9mix 群 : 1.3 mg/mL + S9mix 群 : 1.3 mg/mL 24 時間処理群 : 0.11 mg/mL (細胞毒性のため 0.06 mg/mL まで観察) 48 時間処理群 : 0.11 mg/mL (細胞毒性のため 0.06 mg/mL まで観察)		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	
	純度	97.2%	
	用量	3 投与群(30, 150, 750 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	反復投与毒性 : 30 mg/kg/day 生殖発生毒性 : 150mg/kg/day	
推定根拠	反復投与毒性 : 血液生化学的検査(BUN ・GPT : 150 以上) 相対重量(腎 : 150 以上) 生殖発生毒性 : 生後 4 日生存率 : 750		

	他の毒性	反復投与毒性： 血液生化学的検査(TP ・ Alb ・ A/G ・ Glu ・ CRN ・ Bil : 750) 絶対重量(肝 : 750) 相対重量(肝 : 750) 組織学的所見(肝 - 小葉中心性肝細胞肥大 : 750) 生殖発生毒性： -
	回復性	実施せず
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL30mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当ではない	
藻類生長阻害試験	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：OECD-TG201 培養方式：振とう培養 純度：100% 試験濃度：設定濃度 17、31、56、100mg/L 実測濃度 (濃度を実測せず) 助剤：不明(一定量のメタノール又はエタノール又は DMSO を最小量使用した可能性がある) 0-72hEbC50 (設定値に基づく) = 29mg/L 平成3年度環境庁実施試験	
ミジンコ急性遊泳阻害試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：止水式 純度：100% 試験濃度：設定濃度 10、18、32、56、100mg/L 実測濃度 (濃度を実測せず) 助剤：DMSO と HCO-40 の混合物 (9 : 1) を被験物質と等量 24hEiC50 (設定値に基づく) = 32mg/L 平成3年度環境庁実施試験	
ミジンコ繁殖試験	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：半止水式、48時間毎に換水 純度：100% 試験濃度：設定濃度 0.30、0.93、3.0、9.3、30mg/L 実測濃度 (濃度を実測せず) 助剤：不明 (DMSO と HCO-40 の混合物 (9 : 1) を使用した可能性がある) 21dNOEC (設定値に基づく) = 0.93mg/L 平成3年度環境庁実施試験	

魚類急性 毒性試験	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：100% 試験濃度：設定濃度 0.56、1.0、1.8、3.2、5.6mg/L 実測濃度（24 時間経過後の被験物質濃度は、設定濃度の 36～97%であった。） 助剤：Tween-80 被験物質 1mg 当たり 1mL 96hLC50（設定値に基づく）= 1.8mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 1.0mg/L 群：遊泳異常（個体数不明）</p> <p>平成 3 年度環境庁実施試験</p>
他の毒性 情報	<p>[SIAR（OECD/HPV プログラム）より引用]</p> <p>藻類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 72 h EbC50 = 29 mg/L <p>ミジンコに対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Daphnia magna</i> 24 h EC50 = 32 mg/L ・ <i>Daphnia magna</i> 21 d NOEC = 0.93 mg/L <p>魚類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Oryzias latipes</i> 96 h LC50 = 1.8 mg/L
生態影響 判定根拠	<p>魚類急性毒性試験において 96hLC50 = 1.8mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	<p>水溶解度：17～32mg/L</p>

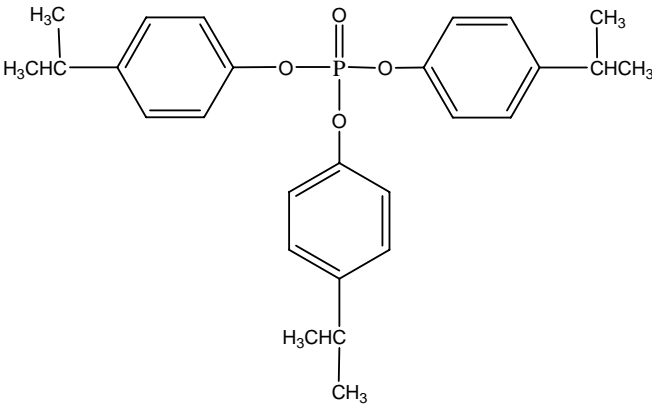
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-430	CAS No.	24800-44-0
判定結果	<p>人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない</p> <p>生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない</p>		
名称 構造式等	<p>名称：トリプロピレングリコール</p> $\text{HO}-\overset{\text{H}_2}{\text{C}}-\underset{\text{CH}_3}{\text{C}}-\text{O}-\overset{\text{H}_2}{\text{C}}-\underset{\text{CH}_3}{\text{C}}-\text{O}-\overset{\text{H}_2}{\text{C}}-\underset{\text{CH}_3}{\text{C}}-\text{OH}$		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性</p> <p>純度 98% . 溶媒 (蒸留水 - 溶解). プレート法 . TA98 , TA100 , TA1535 , TA1537 , WP2 uvrA . (本試験 ,) - S9mix 群 : 5000 μ g/plate + S9mix 群 : 5000 μ g/plate (確認試験) - S9mix 群 : 5000 μ g/plate (TA1535) + S9mix 群 : 5000 μ g/plate (TA1537) (確認試験) - S9mix 群 : 5000 μ g/plate (TA1535)</p>		
染色体 異常	<p>陰性</p> <p>純度 98% . 溶媒 (注射用水 - 溶解). CHL/IU . 1.9 mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施 . - S9mix 群 : 1.9 mg/mL + S9mix 群 : 1.9 mg/mL 24 時間処理群 : 1.9 mg/mL 48 時間処理群 : 1.9 mg/mL</p>		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：蒸留水	
	純度	>98%	
	用量	4 投与群(8, 40, 200, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	反復投与毒性：200 mg/kg/day 生殖発生毒性：1000 mg/kg/day	
	推定根拠	反復投与毒性： 絶対重量(肝 : 1000) 相対重量(肝 : 1000 、腎 : 1000) 生殖発生毒性： 全群で特に毒性学的影響は認められていない	
	他の毒性	反復投与毒性： - 生殖発生毒性： -	
回復性	実施せず		

人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL200mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当ではない
藻類生長阻害試験	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 純度： 97% 試験濃度： 設定濃度 95、170、310、560、1000mg/L 実測濃度 （濃度を実測せず） 助剤： なし 0-72hEbC50（設定値に基づく） > 1000mg/L 0-72hNOECb（設定値に基づく） = 1000mg/L</p> <p>平成3年度環境庁実施試験</p>
ミジンコ急性遊泳阻害試験	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 純度： 97% 試験濃度： 設定濃度 10、32、100、320、1000mg/L 実測濃度 （濃度を実測せず） 助剤： なし 24hEiC50（設定値に基づく） > 1000mg/L</p> <p>平成3年度環境庁実施試験</p>
ミジンコ繁殖試験	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 半止水式、48時間毎に換水 純度： 97% 試験濃度： 設定濃度 10、32、100、320、1000mg/L 実測濃度 （濃度を実測せず） 助剤： なし 21dNOEC（設定値に基づく） = 1000mg/L</p> <p>平成3年度環境庁実施試験</p>
魚類急性毒性試験	<p>生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 純度： 97% 試験濃度： 設定濃度 95、170、310、560、1000mg/L 実測濃度 （濃度を実測せず） 助剤： なし 96hLC50（設定値に基づく） > 1000mg/L</p> <p>平成3年度環境庁実施試験</p>

他の毒性 情報	<p>[SIAR (OECD/HPV プログラム) より引用]</p> <p>藻類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 72 h EbC50 >1000 mg/L、NOECb>1000 mg/L <p>ミジンコに対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Daphnia magna</i> 24 h EC50 >1000 mg/L ・ <i>Daphnia magna</i> 21 d NOEC >1000 mg/L <p>魚類に対する毒性として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Oryzias latipes</i> 96 h LC50 >1000 mg/L
生態影響 判定根拠	<p>3種の急性毒性試験及びミジンコ繁殖阻害試験において、ガイドライン上の試験上限濃度を超える濃度 (1000 mg/L) で影響が認められないことから、第三種監視化学物質相当でない</p>
備考	<p>対水溶解度：水と混合する</p>

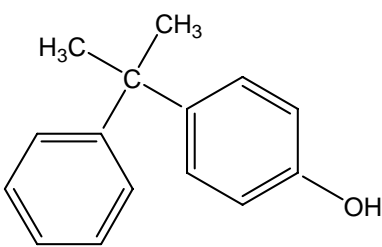
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-2534	CAS No.	26967-76-0
判定結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない 生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない		
名称 構造式等	名称：リン酸トリス (p - クメニル) 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 99.7% . 溶媒 (DMSO - 溶解) . プレート法 . TA98 , TA100 , TA1535 , TA1537 , WP2 uvrA . (本試験) - S9mix 群 : 5000 μ g/plate (全用量で被験物質の析出) + S9mix 群 : 5000 μ g/plate (625 μ g/plate 以上で被験物質の析出) (本試験) - S9mix 群 : 5000 μ g/plate (625 μ g/plate 以上で被験物質の析出) + S9mix 群 : 5000 μ g/plate (625 μ g/plate 以上で被験物質の析出)		
染色体 異常	陰性 純度 99.7% . 溶媒 (DMSO - 溶解) . CHL/IU . 4.4 mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施 . - S9mix 群 : 4.5 mg/mL + S9mix 群 : 4.5 mg/mL 24 時間処理群 : 0.14 mg/mL 48 時間処理群 : 0.14 mg/mL		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	
	純度	99.7%	
	用量	4 投与群(8, 40, 200, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	-	
	NOEL	40mg/kg/day	
推定根拠	血液学的検査(Hgb : 200以上 , Hct : 200以上 ・ 1000) 相対重量(肝 : 200以上)		

	<p>他の毒性</p> <p>摂水量 (1000) 尿検査(尿量 ・尿比重 :1000) 血液学的検査(MCV :1000) 血液生化学的検査(Cho :1000) 絶対重量(肝 :1000) 相対重量(腎 :1000)</p> <p>回復性</p> <p>問題なし</p>
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL40mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない。
藻類生長阻害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i></p> <p>試験法： OECD-TG201</p> <p>培養方式： 振とう培養</p> <p>純度： 100%</p> <p>試験濃度： 設定濃度 500mg/L で調製した分散液をろ過したものの原液、 2 倍希釈液、 4 倍希釈液、 及び 8 倍希釈液</p> <p>実測濃度 13、26、52、110 mg/L (分散系、初期実測濃度) は再試験</p> <p>助剤： HCO-40 100 mg/L</p> <p>0-72hErC50 (実測値に基づく) >110 mg/L (分散系)</p> <p>0-72hNOECr (実測値に基づく) =13 mg/L (分散系)</p> <p>培地に分散させ、濾過している。</p>
ミジンコ急性遊泳阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i></p> <p>試験法： OECD-TG202</p> <p>試験方式： 止水式</p> <p>純度： 100%</p> <p>試験濃度： 設定濃度 70 mg/L で調製した分散液 (限度試験)</p> <p>実測濃度 68 mg/L (分散系、幾何平均値)</p> <p>助剤： HCO-40 100 mg/L</p> <p>48hEiC50 (設定値に基づく) > 70 mg/L (分散系)</p> <p>試験液が白濁するため、ミジンコの観察可能な濃度を限度試験濃度とした。</p>
ミジンコ繁殖阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i></p> <p>試験法： OECD-TG211</p> <p>試験方式： 半止水式、週に 3 回換水</p> <p>純度： 100%</p> <p>試験濃度： 設定濃度 40 mg/L で調製した分散液 (限度試験)</p> <p>実測濃度 39 mg/L (分散系、時間加重平均値)</p> <p>助剤： HCO-40 100 mg/L</p> <p>21dNOEC (設定値に基づく) > 40 mg/L (分散系)</p> <p>試験液が白濁するため、ミジンコの産出幼体を計数できる濃度を限度試験濃度とした。</p>

魚類急性毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：100% 試験濃度：設定濃度 9.5、17、31、56、100 mg/L で調製した分散液 実測濃度 9.0、17、30、55、100 mg/L (分散系、幾何平均値) 助剤：HCO-40 100mg/L 96hLC50 (設定値に基づく) > 100 mg/L (分散系)</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 9.5 mg/L 群：異常遊泳 (72hr 1/10)</p> <p>試験液が白濁するため、高濃度区では魚類の観察は不可能であった。</p>				
生態影響判定根拠	<p>藻類生長阻害試験、魚類急性毒性試験及びミジンコ繁殖試験において溶解限度で影響が認められず、ミジンコ急性遊泳阻害試験において溶解限度で EC50 が算出されないことから、第三種監視化学物質相当でない</p>				
環境調査 1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出限界
	水質	S53	0/24		0.05 ~ 2(μg/L)
	底質	S53	3/24	0.1	0.01 ~ 0.1(μg/g-dry)
	魚類				
備考	<p>1 S54 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課) 被験物質の対水溶解度は 0.1mg/L 未満</p>				

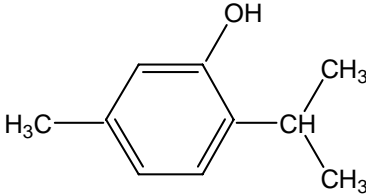
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-122	CAS No.	599-64-4
判定結果	人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断され ない【審議済み】 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：4-(, -ジメチルベンジル)フェノール 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames【審 議済み】	陰性 純度 99.88% . 溶媒 (DMSO - 溶解). (本試験 ,) TA98 , TA100 , TA1535 , TA1537 , WP2 uvrA . - S9mix 群 : 200 μ g/plate (100 μ g/plate 以上で菌の生育障害) + S9mix 群 : 200 μ g/plate (TA98 , TA100 , TA1535 , TA1537 : 最高用量で菌の生育障害) 400 μ g/plate (WP2uvrA : 200 μ g/plate 以上で菌の生育障害)		
染色体 異常【審 議済み】	陰性 純度 98.88% . 溶媒 (DMSO - 溶解). CHL/IU . 2.1mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで 実施 . (本試験) - S9mix 群 : 0.016 mg/mL (細胞毒性のため 0.008 mg/ mL まで観察) + S9mix 群 : 0.06 mg/mL (細胞毒性のため 0.03 mg/ mL まで観察) 24 時間処理群 : 0.04 mg/mL (細胞毒性のため 0.02 mg/ mL まで観察)		
28 日間 反復投与 【審議済 み】	投与方法	強制経口投与 溶媒：オリーブ油	
	純度	99.88% .	
	用量	3 投与群 (100 , 300 , 1000mg/kg)	
	死亡	1000 (3/14) , 1000 (1/14)	
	NOEL	100 mg/kg/day	
推定根拠	尿検査 (尿量 ・ 尿比重 : 300 以上 ・ 1000 、 尿沈渣 : 300 以上) 一般状態 (飲水量 : 300 以上) 相対重量 (肝 : 300 以上 ・ 1000) 組織学的所見 (腎 - 尿細管上皮再生 : 300 以上 ・ 1000)		

	<p>他の毒性</p>	<p>体重 : 1000 一般状態 (軟便 : 1000) 血液学的検査 (WBC : 1000 、 Plt : 1000 、 APTT : 1000) 血液生化学的検査 (Alb ・ A/G ・ TG : 1000 、 GPT ・ ALP ・ -GTP ・ Pi : 1000 、 TP ・ Bil ・ Glu ・ Cho ・ BUN ・ CRN ・ K ・ Cl ・ Ca : 1000) 絶対重量 (肝 ・ 腎 : 1000 、 胸腺 : 1000) 相対重量 (腎 : 1000 、 胸腺 : 1000 、 甲状腺 : 1000) 組織学的所見 (胃 - 前胃境界縁のびらん・扁平上皮過形成 : 1000 、 肝 - 胆管増生 : 1000 、 腎 - 腎尿細管拡張・顆粒円柱・皮質リッパ^o球浸潤・腎乳頭好中球浸潤集合管上皮再生 : 1000)</p>
	<p>回復性</p>	<p>飲水量・尿量 、 尿比重 、 腎臓重量 、 腎臓 - 腎尿細管拡張・顆粒円柱・皮質リッパ^o球浸潤・尿細管上皮再生・集合管上皮再生</p>
<p>人健康影響判定根拠</p>	<p>Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL 100 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない。</p>	
<p>藻類生長阻害試験</p>	<p>生物種 : <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法 : 化審法 TG 培養方式 : 振とう培養 純度 : 100% 試験濃度 : 設定濃度 0.21、0.47、1.0、2.3、5.0 mg/L 実測濃度 0.14、0.33、0.73、1.6、3.4 mg/L (算術平均値) 助剤 : なし 0-72hErC50 (実測値に基づく) = 1.4 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) = 0.33 mg/L</p>	
<p>ミジンコ急性遊泳阻害</p>	<p>生物種 : オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法 : 化審法 TG 試験方式 : 止水式 純度 : 100% 試験濃度 : 設定濃度 0.50、0.75、1.1、1.7、2.5、3.8 mg/L 実測濃度 0.50、0.78、1.2、1.7、2.6、3.8 mg/L (初期実測値) 0.48、0.23、1.1、1.6、2.5、3.7 mg/L (48 時間後実測値) 助剤 : なし 48hEiC50 (設定値に基づく) = 1.7 mg/L</p>	
<p>魚類急性毒性</p>	<p>生物種 : ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法 : 化審法 TG 試験方式 : 半止水式、24 時間毎に換水 純度 : 100% 試験濃度 : 設定濃度 0.43、0.69、1.1、1.8、2.8、4.5 mg/L 実測濃度 0.34、0.55、0.86、1.6、2.5、4.3 mg/L (時間加重平均値) 助剤 : なし 96hLC50 (実測値に基づく) = 1.2 mg/L</p> <p>また、以下の濃度区において毒性症状 (異常呼吸、遊泳緩慢、過敏反応、反転、横転、水面浮上、水底停止) が認められた。 0.86 mg/L : 暴露開始 7 2 時間後から試験終了時まで観察された。発症個体数は不明。</p>	

生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において 0-72hErC50 = 1.4mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50 = 1.2mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	対水溶解度：微溶

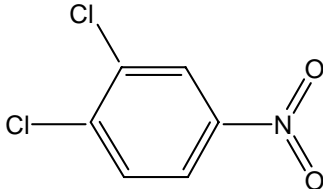
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-521	CAS No.	89-83-8
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当【審議済み】 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：チモール 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames【審 議済み】	陰性 純度 98%以上・溶媒 (DMSO - 溶解) . プレート法 . TA98 , TA100 , TA1535 , TA1537 , WP2 uvrA . 5000 μg/plate まで実施した用量設定試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施 . (本試験) - S9mix 群 : 500 μg/plate (TA1537 : 250 μg/plate 以上で菌の生育阻害 TA98, TA100, TA1535, WP2uvrA : 最高用量で菌の生育阻害) + S9mix 群 : 1000 μg/plate (TA1535, TA1537 : 500 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 2000 μg/plate (TA98, TA100, WP2uvrA : 1000 μg/plate 以上で菌の生育阻害) (本試験) - S9mix 群 : 500 μg/plate (最高用量で菌の生育阻害) + S9mix 群 : 1000 μg/plate (TA1535, TA1537 : 500 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 2000 μg/plate (TA98, TA100, WP2uvrA : 1000 μg/plate 以上で菌の生育阻害)		
染色体 異常【審 議済み】	陽性 D20 値 = 0.38mg/mL (+S9mix 群 : 構造異常) +S9mix 群で構造異常の誘発 . 純度 98% . 溶媒 (DMSO - 溶解) . CHL/IU . 1.5mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施 . - S9mix 群 : 0.08 mg/ mL + S9mix 群 : 0.08 mg/mL 24 時間処理群 : 0.08 mg/mL (細胞毒性のため 0.040mg/mL まで観察) 48 時間処理群 : 0.08 mg/mL (細胞毒性のため 0.040mg/mL まで観察)		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 3%アセトン水溶液	
	純度	99.6 %	
	用量	3 投与群 (8, 40, 200 mg/kg/day)	
	死亡	本試験 200 : 1/10, 200 : 1/10 [投与ミ]	
NOEL	反復投与 : 8 mg/kg/day 生殖発生毒性 : 40 mg/kg/day		

【審議済み】	推定根拠	反復投与毒性： 病理組織学的所見(前胃 - 水腫：40 以上、 前胃 - 上皮過形成：40 以上、 前胃 - 炎症細胞浸潤：40 以上・200) 生殖発生毒性： 新生児低体重・生後体重増加抑制：200
	他の毒性	反復投与毒性： 一般状態(自発運動減少・歩行失調：200)
	回復性	実施せず
他の毒性 【審議済み】	小核試験 陰性 純度 98% . BDF1(C57BL/6×DBA/2)系マウス . 1 群雌雄各 5 匹 . 3 投与群 (312.5 , 625 , 1250mg/kg) . 骨髓細胞	
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性、染色体異常試験は軽微な陽性であるが、NOEL8mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。	
藻類生長阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG 培養方式：振とう培養 純度：100% 試験濃度：設定濃度 0.85、1.9、4.1、9.1、20 mg/L 実測濃度 0.83、1.8、3.9、8.4、18 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 0-72hErC50 (設定値に基づく) = 14 mg/L 0-72hNOECr (設定値に基づく) = 1.9 mg/L	
ミジンコ急性遊泳阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式 純度：100% 試験濃度：設定濃度 2.1、2.9、4.1、5.7、8.0 mg/L 初期実測濃度 2.1、 - 、 - 、 - 、 8.7 mg/L (幾何平均値) 測定せず 助剤：なし 48hEiC50 (設定値に基づく) = 4.5 mg/L 試験実施者は、一部の濃度区において濃度の実測を行わなかったことについて、予備検討において水中で安定であると確認できたためとしている。	
ミジンコ繁殖阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、2 日に 1 回換水 純度：100% 試験濃度：設定濃度 0.25、0.50、1.0、2.0、4.0 mg/L 実測濃度 0.25、0.49、1.0、2.0、4.0 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 21dNOEC (設定値に基づく) = 2.0 mg/L	

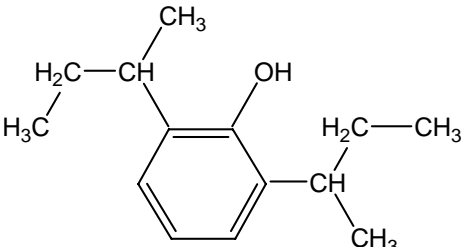
魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、2日に1回換水 純度：100% 試験濃度：設定濃度 0.91、3.6、5.1、7.1、10 mg/L 実測濃度 0.84、 - 、 - 、 - 、 10 mg/L (幾何平均値) 測定せず 助剤：なし 96hLC50 (設定値に基づく) = 4.7 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 3.6 mg/L 群：表層集中 (24hr 2/7、48hr 2/7、72hr 2/7、96hr 2/7) 軽度平衡喪失 (96hr 1/7) 平衡喪失 (72hr 1/7、96hr 1/7) 活動度の低下 (72hr 1/7、96hr 4/7)</p> <p>試験実施者は、一部の濃度区において濃度の実測を行わなかったことについて、予備検討において水中で安定であると確認できたためとしている。</p>
生態影響 判定根拠	<p>魚類急性毒性試験において 96hLC50 = 4.7mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	<p>対水溶解度：1g/L</p>

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-455	CAS No.	99-54-7
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：3,4-ジクロロニトロベンゼン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG 培養方式：振とう培養 純度：100% 試験濃度：設定濃度 0.22、0.46、1.0、2.2、4.6、10 mg/L 実測濃度 <0.2、0.34、0.72、1.6、3.4、7.6 mg/L (幾何平均値) 助剤：なし 0-72hErC50 (実測値に基づく) = 2.5 mg/L 0-72hNOECr (実測値に基づく) = 0.72 mg/L		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式 純度：100% 試験濃度：設定濃度 1.0、1.8、3.2、5.6、10 mg/L 実測濃度 0.87、1.6、2.9、4.6、8.5 mg/L (算術平均値) 助剤：なし 48hEiC50 (実測値に基づく) = 5.2 mg/L		
魚類急性 毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、48 時間後に換水 純度：100% 試験濃度：設定濃度 1.0、1.8、3.2、5.6、10 mg/L 実測濃度 0.77、1.5、2.8、4.6、8.5 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 96hLC50 (実測値に基づく) = 4.7 mg/L また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 2.8mg/L 群：遊泳過敏、狂奔 (24hr 5/10) 上層遊泳 (72hr 1/10) 4.6mg/L 群：上層遊泳 (24hr 5/10、48hr6/10、72hr6/10、96hr3/6) 遊泳過敏、狂奔 (24hr10/10、48hr8/10)		

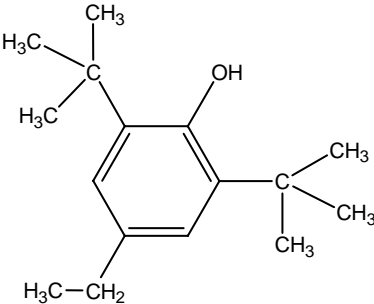
他の毒性 情報	[SIAR(OECD/HPV プログラム)より引用] 藻類に対する毒性値として ・ <i>Scenedesmus obliquus</i> 48hErC50=5.8mg/L ・ <i>Chlorella fusca</i> 24hErC50=0.32mg/L ・ <i>Scenedesmus subspicatus</i> 6dEC50=27mg/L ミヅコに対する毒性値として ・ <i>Daphnia magna</i> 24hEC50=3mg/L 魚類に対する毒性として ・ <i>Leuciscus idus</i> 48hLC50=3.1mg/L ドイツにおいて実施				
生態影響 判定根拠	魚類急性毒性試験において 96hLC50 = 4.7mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。				
環境調査 1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S56	0/21		0.02(μg/L)
	底質	S56	0/21		0.001(μg/g-dry)
	魚類				
備考	1 S57 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課) 対水溶解度：121mg/L (20) SRC PhysProp Database				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-521、3-526	CAS No.	5510-99-6
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	<p>名 称： 2,6-ジ-sec-ブチルフェノール</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG 培養方式：振とう培養（密閉系） 純度：92% 試験濃度：設定濃度 0.046、0.10、0.22、0.46、1.0、2.2 mg/L 実測濃度 0.036、0.083、0.16、0.36、0.83、1.8 mg/L（初期実測値） 助剤：なし 0-72hErC50（実測値に基づく）= 1.1 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）= 0.083 mg/L</p>		
ミジンコ 急性遊泳 阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：止水式 純度：92% 試験濃度：設定濃度 0.32、0.56、1.0、1.8、3.2 mg/L 実測濃度 0.30、0.53、0.95、1.7、2.9 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 48hEiC50（実測値に基づく）= 0.96 mg/L</p>		

魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：92% 試験濃度：設定濃度 0.010、0.022、0.046、0.10、0.22、0.32、0.46、1.0 mg/L 実測濃度 0.0066、0.015、0.028、0.062、0.12、0.17、0.29、0.60 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 96hLC50 (実測値に基づく) = 0.15 mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.028mg/L 群：上層遊泳 (24hr 4/10、48hr 2/10、72hr 2/10、96hr 2/10) 遊泳過敏・狂奔 (24hr 10/10、96hr 10/10) 0.062mg/L 群：上層遊泳 (24hr 2/10) 横臥 (48hr 1/10、72hr 1/10、96hr 1/10) 横転 (浮く) (3hr 1/10) 遊泳過敏・狂奔 (3hr 10/10) 0.12mg/L 群：上層遊泳 (3hr 2/10、24hr 2/10、48hr 1/10、72hr 1/10、96hr 1/9) 横臥 (24hr 1/10、48hr 4/10、72hr 4/10、96hr 3/9)</p>
生態影響 判定根拠	<p>藻類生長阻害試験において 0-72hErC50=1.1mg/L、0-72hNOECr=0.083mg/L、ミジンコ 急性遊泳阻害試験において 48hEiC50 = 0.96 mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50 = 0.15mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	<p>対水溶解度：1.8mg/L (25) SRC PhysProp Database</p>

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-540	CAS No.	4130-42-1
判定結果	生態影響 第三種監視化学物質相当。		
名称 構造式等	<p>名称：2,6-ジ-tert-ブチル-4-エチルフェノール</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
藻類生長 阻害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：化審法 TG 培養方式：振とう培養（密閉系） 純度：99% 試験濃度：設定濃度 0.57 mg/L（限度試験） 実測濃度 0.52 mg/L（幾何平均値） 助剤：なし</p> <p>0-72hErC50（実測値に基づく）> 0.52 mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）= 0.52 mg/L * 生長速度の日間変動係数 39%</p> <p>0-48hErC50（実測値に基づく）> 0.54mg/L 0-48hNOECr（実測値に基づく）= 0.54mg/L</p> <p>対照区（及び試験区）の pH 変動は、1.5 を超えているが、試験実施者は密閉系の試験のため不可避であったとしている。</p> <p>対照区（及び試験区）の生長速度の日間変動係数は 35% を超えているが、試験実施者は密閉系の試験のため不可避であったとしている。なお、対照区（及び試験区）生長速度は藻類の生物量が増加した 48-72h において大幅に低下したことを踏まえ、0-48h における毒性値も記載した。なお、0-48h の範囲での藻類の生長速度は、1.992(0-24h)、1.959(24-48h) と日間においてほぼ一定であった。</p> <p>被験物質の培地への溶解度：0.57mg/L（25 ）</p>		

ミジンコ 急性遊泳 阻害	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間後に換水 純度：99% 試験濃度：設定濃度 0.10、0.19、0.32、0.58 mg/L 実測濃度 0.074、0.14、0.27、0.47 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 48hEiC50 (実測値に基づく) > 0.47 mg/L (対試験水溶解上限濃度である試験区においても阻害率は 50%に満たなかった。) 被験物質の試験用水への溶解度：0.58mg/L (20)</p>				
魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：化審法 TG 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 純度：99% 試験濃度：設定濃度 0.12、0.21、0.37、0.66 mg/L 実測濃度 0.073、0.16、0.34、0.59 mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 96hLC50 (実測値に基づく) = 0.59 mg/L (近似値) また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.16 mg/L 群：上層遊泳 (72hr 1/10、96hr 2/10) 0.34 mg/L 群：上層遊泳 (96hr 2/10) 横臥 (96hr 2/10) 0.59mg/L 群：横臥 (48hr 1/8、72hr 4/8、96hr 3/5) 対試験水溶解上限濃度である試験区においてのみ死亡個体が認められたため、統計計算により 96hLC50 を算出することは困難である。しかし、当該試験区において半数の個体が死亡したこと、及び、生存個体の過半数においても重篤な毒性症状が認められていることから、96hLC50 の近似値として当該試験区の実測濃度を記載した。 被験物質の試験用水への溶解度：0.66mg/L (24)</p>				
生態影響 判定根拠	<p>魚類急性毒性試験において 96hLC50 = 0.59mg/L (近似値) であることから、第三種監視化学物質相当。</p>				
環境調査 1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S54	0/33		1 ~ 30(μg/L)
	底質	S54	0/33		0.01 ~ 0.7(μg/g-dry)
	魚類				
備考	<p>1 S55 版「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)</p>				

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-2659	CAS No.	335-67-1
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当【平成14年12月27日に指定化学物質として告示済み】 生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質に該当するとは判断されない		
名称 構造式等	名称：ペルフルオロオクタン酸（PFOA） 分子式：C ₈ HF ₁₅ O ₂ $\text{CF}_3 - (\text{CF}_2)_6 - \text{COOH}$		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames ¹⁾ 【審議済み】	陰性 純度 不明．溶媒(脱イオン水 - 不明)． TA98 , TA100 , TA1535 , TA1537 , WP2uvrA . - S9mix 群：5000 μg/plate + S9mix 群：5000 μg/plate 被験物質はナトリウム塩		

染色体異常²⁾³⁾⁴⁾

陰性

純度 不明 . 溶媒(水 - 不明) . CHO/IU .

1.66mg/ml(- S9mix)及び 4.98mg/ml(+ S9mix)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施 .

(本試験)

- S9mix 20 時間処理群 : 2mg/ml
- + S9mix 3 時間処理 0 時間回復群 : 5mg/ml
- S9mix 20 時間処理群 : 1.99mg/ml
- + S9mix 3 時間処理 0 時間回復群 : 4.97mg/ml
- S9mix 44.1 時間処理群 : 0.995mg/ml
- + S9mix 3 時間処理 0 時間回復群 :

4.97mg/ml(細胞毒性のため 3.73mg/ml まで観察)

(確認試験)

20 時間処理群 : 3.74mg/ml(細胞毒性のため 2.49mg/ml まで観察)

44 時間処理群 : 3.74mg/ml

被験物質はナトリウム塩

陰性

純度 不明 . 溶媒(培養液) . ヒトリンパ球 .

5.0mg/ml まで実施した細胞増殖抑制の結果を参考に以下の濃度まで実施 .

- S9mix 22 時間処理群 : 2.01mg/ml(細胞毒性のため 1.51mg/ml まで観察)
- + S9mix 3 時間処理 0 時間回復群 : 2.51mg/ml(細胞毒性のため 2.01mg/ml まで観察)
- S9mix 22.1 時間処理群 : 2mg/ml(細胞毒性のため 0.9mg/ml まで観察)
- + S9mix 3 時間処理 0 時間回復群 : 3mg/ml(細胞毒性のため 1.5mg/ml まで観察)
- S9mix 46 時間処理群 : 2mg/ml(細胞毒性のため 0.9mg/ml まで観察)
- + S9mix 3 時間処理 0 時間回復群 : 3mg/ml (細胞毒性のため 2mg/ml まで観察)

被験物質はナトリウム塩

陰性

純度 不明 . 溶媒(培養液) . CHO/IU .

1.69mg/ml まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施 .

- S9mix 20 時間処理群 : 1.5mg/ml (細胞毒性のため 1mg/ml まで観察)
- + S9mix 3 時間処理 0 時間回復群 : 2mg/ml
- S9mix 20.1 時間処理群 : 1.2mg/ml(細胞毒性のため 0.8mg/ml まで観察)
- + S9mix 3 時間処理 0 時間回復群 : 2.5mg/ml
- S9mix 44.2 時間処理群 : 0.8mg/ml(細胞毒性のため 0.6mg/ml まで観察)
- + S9mix 3 時間処理 0 時間回復群 : 2.75mg/ml

被験物質はアンモニウム塩

28 日間
反復投与

投与方法

混餌投与

純度

不明

毒性試験 5)【審議 済み】	用量	30, 100, 300, 1000, 3000, 10000, 30000 ppm
	死亡	10000 : 5/5・ 5/5、 30000 : 5/5・ 5/5
	NOEL	30 ppm 未満 [1.5mg/kg/day 未満]
	推定根拠	絶対重量(肝 : 30 以上 ・1000 以上) 相対重量(肝 : 30 以上 ・3000) 組織学的所見(肝 - 好酸性変化・壊死を伴った肝細胞肥大 : 30 以上)
	他の毒性	体重 : 100 以上 摂餌量 : 1000 以上
	回復性	実施せず
	備考	被験物質はアンモニウム塩
90 日間 反復投与 毒性試験 6)【審議 済み】	投与方法	混餌投与
	純度	不明
	用量	5 投与群 (10, 30, 100, 300, 1000ppm) (推定摂取量 : 0.5 , 1.5 , 5 , 15 , 50 mg/kg/day)
	死亡	(100 : 1/5, 300 : 1/5)
	NOEL	10 ppm (0.5 mg/kg/day)
	推定根拠	絶対重量 (肝↑ : 30 以上) 血液学的検査 (RBC↓ : 30 以上)
	他の毒性	体重↓ : 1000♂ 相対重量 (肝↑ : 300 以上) 血液生化学的検査 (BUN↑・AIP↑ : 100 以上) 組織学的所見 (肝 - 巣状 ~ 多巢性肝細胞肥大・肝細胞及び類洞上皮細胞に黄褐色色素沈着・広汎性類洞鬱血 : 100 以上 、 肝 - 肝細胞壊死 : 100 以上♂・300♀)
	回復性	実施せず
備考	被験物質はアンモニウム塩	
小核試験 7) 8)	陰性	純度不明・溶媒(脱イオン水)・Crl:CD-1(ICR)BR マウス・1 群雌雄各 5 匹・ 投与量(1250, 2500, 5000mg/kg)・骨髓細胞・ 被験物質はナトリウム塩
	陰性	純度不明・溶媒(脱イオン水)・Crl:CD-1(ICR)BR マウス・1 群雌雄各 5 匹・ 投与量(498 , 995 , 1990mg/kg)・骨髓細胞・ 被験物質はアンモニウム塩

<p>他の毒性 10)11)</p>	<p>反復投与 アカゲザル (3, 10, 30, 100 mg/kg/day 強制経口投与) 90日間試験、 純度 不明 NOEL : 3 mg/kg/day 推定根拠 一般状態 (食欲不振・黒色便 : 10 以上) 他の毒性 体重↓ : 30 以上 一般状態 (不活発・顔面蒼白及び浮腫 : 30 以上) 血液学的検査 (PT↑・APTT↑ : 30) [100mg/kg 群は全例死亡] 組織学的所見 (副腎 - びまん性脂肪枯渇 : 30 以上♂♀ 骨髄 - 細胞密度 : 30 以上♂♀ 脾及びリンパ節 - リンパ濾胞の萎縮 : 30 以上♂♀) 被験物質はアンモニウム塩</p>
	<p>催奇形性試験 SDラット 4投与群(0.05 , 1.5 , 5 , 150 mg/kg/day 強制経口投与)[妊娠 6 ~ 15 日投与] 純度(不明) NOEL : 5 mg/kg/day 【推定根拠】母体重↓、骨化遅延 : 150 【他の毒性】着床所見に異常は見られなかった。催奇形性はみられなかった。 児の眼レンズに対する影響も見られなかった 被験物質はアンモニウム塩</p>

備考	<p>参考文献</p> <p>1)Final Report, Mutagenicity Test with T-6342 in the Salmonella-Eschericia Coli / Mammalian - Microsome Reverse Mutation Assay with a Confirmatory Assay, Corning Hazelton,Study No.1703073-0-409,3M Ref.No.FC-1090,L13364,F11426,Lot1,sodium perfluorooctane</p> <p>2)Final Report, Mutagenicity Test on T-6342 Measuring Chromosomal Aberrations in Chinese Hamster Hamster Ovary(CHO)Cells:with a Confirmatory Assay with MultipleHarvests.CorningHazelton,StudyNo.17073-0-437CO,3MRef.No.FC-1090,L13364,F11426,Lot1,sodium perfluorooctanoate</p> <p>3)Final Report, Mutagenicity Test on T-6342 Measuring Chromosomal Aberrations in Human Whole Blood Lymphocytes with a Confirmatory Assay with Multiple Harvests, Corning Hazelton, StudyNo. 17073-0-439CO, 3MRef. No. FC-1090, L13364, F11426, Lot1, sodium perfluorooctanoate</p> <p>4)Final Report, Mutagenicity Test with T-6564 Measuring Chromosomal Aberrations in Chinese Hamster Ovary(CHO) Cells: with a Confirmatory Assay with Multiple Harvests, Corning Hazelton, Study No. 17750-0-437CO, 3M Ref. No. FC-1015, L13167, straight-chain APFO</p> <p>5)Final Report, 28-Day Oral Toxicity Study with FC-143 in Albino Rats, Industrial Bio-Test Labs, Study No.8532-10654, 3M Reference No.T-1742CoC,Lot269</p> <p>6)Final Report, Ninety Day Subacute Rat Toxicity Study on Fluorad Fluorochemical FC-143,Intl R&D Corp,Study No.137-089,3M Reference No. T-3141</p> <p>7)Final Report, Mutagenicity Test on T-6342 in an In Vivo Mouse Micronucleus Assay, Corning Hazelton, Study No. 17073-0-455, 3M Ref. No.FC-1090, L13364, F11426, Lot 1, sodium perfluorooctanoate</p> <p>8)Final Report, Mutagenicity Test on T-6564 in an In Vivo Mouse Micronucleus Assay, Corning Hazelton, Study No. 17050-0-455, 3M Ref. No.FC-1015, L-13167, strait-chain APFO</p> <p>9)FinalReport,Ninety Day Subacute Rhesus Monkey Toxicity Study, Intl R&D Corp, Study No. 137-090</p> <p>10)FinalReport, Oral Teratology Study of T-2998 CoC in Rats, Riker Labs, Study No.0681TR0110 with Amendment to Final Report and Protocol</p>
人健康影響判定根拠	Ames 及び染色体異常試験は陰性であるが、28 日間反復投与毒性試験において NOEL1.5 mg/kg/day 未満 (90 日間反復投与毒性試験においては NOEL0.5mg/kg/day) であることから、第二種監視化学物質相当。

藻類生長 阻害	<p>生物種：<i>Pseudokirchneriella subcapitata</i></p> <p>11)</p> <p>被験物質：PFOA >96.5%、C6,C7,C9 ペルフルオロ同族体 <3.5%</p> <p>試験法：EPA-TSCA、GLP 試験</p> <p>試験方式：止水式</p> <p>試験濃度：32、63、130、250、500 mg/L (設定値)</p> <p>濃度の実測は行っていない。</p> <p>助剤：イソプロパノール (各試験区において、被験物質と同量)</p> <p>96hEC50(cell density)=90mg/l, (設定値として)</p> <p>96hErC50=90mg/l, (設定値として)</p> <p>96hNOECr=63mg/l (設定値として)</p> <p>63mg/L 以下の濃度区では 96h 平均生長速度の阻害は認められなかった。</p> <p>130mg/L 以上の濃度区における藻類は増殖しなかった。</p> <p>130mg/L 以上の濃度区における pH は 2.9 ~ 4.1 であった。</p> <p>12)</p> <p>被験物質：30%直鎖型 PFOA アンモニウム塩の、水を 80%含む混合物</p> <p>試験法：OECD TG201、非 GLP 試験</p> <p>試験方式：止水式</p> <p>試験濃度：210、430、830、1670、3330 mg/L (設定値、混合物として)</p> <p>濃度の実測は行っていない。</p> <p>助剤：なし</p> <p>96hEC50(cell count)=1980mg/L (設定値、混合物として)</p> <p>96hErC50>3330mg/L (設定値、混合物として) (最高試験濃度区においても阻害率が 50% に満たず、ErC50 が計算されなかった。)</p>
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>ミジンコ 急性遊泳 阻害</p>	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 13)</p> <p>被験物質：PFOA >96.5%、C6,C7,C9 ペルフルオロ同族体 <3.5% 試験法：EPA-TSCA、GLP 試験 試験方式：止水式 試験濃度：65、110、180、300、500 mg/L (設定値) 濃度の実測は行っていない。 助剤：イソプロパノール (各試験区において、被験物質と同量) 48hEC50= 360 mg/l</p> <p>14)</p> <p>被験物質：PFOA アンモニウム塩 <45%、水 50%、不活性ペルフルオロ化合物 <3%、C5 又は C7 ペルフルオロ類似物 1~2% 試験法：OECD TG202(acute)、非 GLP 試験 試験方式：止水式 試験濃度：150、250、400、600、1000 mg/L (設定値、混合物として) 濃度の実測は行っていない。 助剤：なし 48hEC50= 584 mg/l (設定値、混合物として)</p> <p>15)</p> <p>被験物質：30%直鎖型 PFOA アンモニウム塩の、水を 80%含む混合物 試験法：EPA-TSCA、非 GLP 試験 試験方式：止水式 試験濃度：430、730、1200、2000、3330 mg/L (設定値、混合物として) 濃度の実測は行っていない。 助剤：なし 48hEC50= 1200 mg/l (設定値、混合物として)</p>
-----------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

魚類急性毒性	<p>生物種：ファットヘッドミノー <i>Pimephales promelas</i> 16)</p> <p>被験物質：PFOA アンモニウム塩 <45%、水 50%、不活性ペルフルオロ化合物 <3%、C5 又は C7 ペルフルオロ類似物 1~2%</p> <p>試験法：OECD TG203、GLP 試験</p> <p>試験方式：止水式</p> <p>試験濃度：150、250、400、600、1000 mg/L (設定値、混合物として) 濃度の実測は行っていない。</p> <p>助剤：なし</p> <p>96hLC50 1000 mg/l (設定値に基づく。混合物として)(試験最高濃度においても影響が認められなかった。)</p> <p>17)</p> <p>被験物質：PFOA >96.5%、C6,C7,C9 ペルフルオロ同族体 <3.5%</p> <p>試験法：OECD TG203、GLP 試験</p> <p>試験方式：止水式</p> <p>試験濃度：65、110、180、300、500 mg/L (設定値) 濃度の実測は行っていない。</p> <p>助剤：イソプロパノール (各試験区において、被験物質と同量)</p> <p>96hLC50= 140 mg/l (暴露開始 24h において、180mg/L 以上の濃度区で全ての個体が死亡した。その他の影響は認められなかった。) 180mg/L 以上の濃度区における pH は 3.0~4.6 であった。</p> <p>18)</p> <p>被験物質：30%直鎖型 PFOA アンモニウム塩の、水を 80%含む混合物</p> <p>試験法：非 GLP 試験</p> <p>試験方式：止水式</p> <p>試験濃度：530、830、1330、2100、3330 mg/L (設定値、混合物として) 濃度の実測は行っていない。</p> <p>助剤：なし</p> <p>96hLC50= 2470 mg/l (設定値、混合物として)</p>				
生態影響判定根拠	<p>藻類生長阻害試験 () において 96hNOECr=63mg/L (被験物質の酸性度の影響を考慮した場合、より大きい値になることが考えられる。) であり、ミジンコ急性遊泳阻害試験 () において 48hEC50= 360 mg/l であり、魚類急性毒性試験 () において 96hLC50= 140 mg/l (被験物質の酸性度の影響を考慮した場合、より大きい値になることが考えられる。) であることから第三種監視化学物質相当でない。</p>				
環境調査 1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	H14	60/60	0.00033-0.10 µg/L	(0.00004)
	大気	H16	60/60	0.22~5,300pg/m ³	(0.14)
	食事	H16	10/50	nd~0.024ng/g (生重量)	(0.010)

備考	<p>1 平成 17 年度(2005 年度)「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)</p> <p>対水溶解度 : 3.3g/L (20)</p> <p>以下の参考文献は、過去の化学物質審査小委員会 (第 10 回、平成 14 年 1 月 11 日開催) で示されたものである。</p> <p>11) Ward J.T., Magazu P.J., Boeri L.R., Growth and reproduction toxicity test with N2803-3 and the freshwater Alga, <i>Selenastrum capricornutum</i>, T. R. Wilbury Laboratories, Study number 893-TH, Submitted to 3M Company St. Paul, Minesota 55144, (1996) (GLP: Yes)</p> <p>12) Ward J.T., Novius J., Boeri L.R., Growth and reproduction toxicity test with FC-1015 and the freshwater Alga, <i>Selenastrum capricornutum</i>, T. R. Wilbury Laboratories, Study number 1029-TH, Submitted to 3M Company St. Paul, Minesota 55144, (1996) (GLP: No)</p> <p>13) Ward J.T., Magazu P.J., Boeri L.R., Acute toxicity of N2803-3 to the Daphnid, <i>Daphnia magna</i>, T. R. Wilbury Laboratories, Study number 892-TH, Submitted to 3M Company St. Paul, Minesota 55144, (1996) (GLP: Yes)</p> <p>14) Ward J.T., Boeri L.R., Static Acute Toxicity of FX-1003 to the Daphnid, <i>Daphnia magna</i>, EnviroSystems Division Resource Analysts, Study number 9013-3 (1990) (GLP:Yes)</p> <p>15) Ward J. T., Nevius J., Boeri L.R.. Acute toxicity of FC-1015 to the Daphmid, <i>Daphnia magna</i>, T. R. Wilbury Laboratories, Study number 1030-TH, Submitted to 3M Company St. Paul, Minesota 55144, (1996) (GLP: No)</p> <p>16) Ward J.T., Boeri L.R., Static Acute Toxicity of FX-1003 to the Fathead Minnow, <i>Pimephales promelas</i>, EnviroSystems Division Resource Analysts, Study number 9014-3 (1990) (GLP: Yes)</p> <p>17) Ward J.T., Magazu P.J, Boeri L.R., Acute toxicity of N2803-3 to the Fathead Minnow, <i>Pimephales promelas</i>, T.R. Wilbury Laboratories, Inc., Study number 891-TH, Submitted to 3M Company St. Paul, Minesota 55144, (1996) (GLP: Yes)</p> <p>18) Ward J.T., Novius J., Boeri L.R., Acute toxicity of FC-1015 to the Fathead Minnow, <i>Pimephales promelas</i>, T.R. Wilbury Laboratories, Inc., Study number 1031-TH, Submitted to 3M Company St. Paul, Minesota 55144, (1996) (GLP: No)</p>
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-1195	CAS No.	3825-26-1
判定結果	総合判定 人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質に該当するとは判断 されない		
名称 構造式等	名 称： パーフルオロオクタン酸アンモニウム塩 (APFO) 分子式： $C_8H_4F_{15}O_2N$ $CF_3 - (CF_2)_6 - COONH_4$		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
備考	変化物あり		

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-2659	CAS No.	335-67-1
判定結果	人健康影響 第二種監視化学物質相当【平成14年12月27日に指定化学物質として告示済み】 生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質に該当するとは判断されない		
名称 構造式等	名称：ペルフルオロオクタン酸（PFOA） 分子式：C ₈ HF ₁₅ O ₂ $\text{CF}_3 - (\text{CF}_2)_6 - \text{COOH}$		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames ¹⁾ 【審議済み】	陰性 純度 不明．溶媒(脱イオン水 - 不明)． TA98 , TA100 , TA1535 , TA1537 , WP2uvrA . - S9mix 群：5000 μg/plate + S9mix 群：5000 μg/plate 被験物質はナトリウム塩		

染色体異常²⁾³⁾⁴⁾

陰性

純度 不明．溶媒(水 - 不明)．CHO/IU．

1.66mg/ml(- S9mix)及び 4.98mg/ml(+ S9mix)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施．

(本試験)

- S9mix 20 時間処理群：2mg/ml
- + S9mix 3 時間処理 0 時間回復群：5mg/ml
- S9mix 20 時間処理群：1.99mg/ml
- + S9mix 3 時間処理 0 時間回復群：4.97mg/ml
- S9mix 44.1 時間処理群：0.995mg/ml
- + S9mix 3 時間処理 0 時間回復群：

4.97mg/ml(細胞毒性のため 3.73mg/ml まで観察)

(確認試験)

20 時間処理群：3.74mg/ml(細胞毒性のため 2.49mg/ml まで観察)

44 時間処理群：3.74mg/ml

被験物質はナトリウム塩

陰性

純度 不明．溶媒(培養液)．ヒトリンパ球．

5.0mg/ml まで実施した細胞増殖抑制の結果を参考に以下の濃度まで実施．

- S9mix 22 時間処理群：2.01mg/ml(細胞毒性のため 1.51mg/ml まで観察)
- + S9mix 3 時間処理 0 時間回復群：2.51mg/ml(細胞毒性のため 2.01mg/ml まで観察)
- S9mix 22.1 時間処理群：2mg/ml(細胞毒性のため 0.9mg/ml まで観察)
- + S9mix 3 時間処理 0 時間回復群：3mg/ml(細胞毒性のため 1.5mg/ml まで観察)
- S9mix 46 時間処理群：2mg/ml(細胞毒性のため 0.9mg/ml まで観察)
- + S9mix 3 時間処理 0 時間回復群：3mg/ml (細胞毒性のため 2mg/ml まで観察)

被験物質はナトリウム塩

陰性

純度 不明．溶媒(培養液)．CHO/IU．

1.69mg/ml まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施．

- S9mix 20 時間処理群：1.5mg/ml (細胞毒性のため 1mg/ml まで観察)
- + S9mix 3 時間処理 0 時間回復群：2mg/ml
- S9mix 20.1 時間処理群：1.2mg/ml(細胞毒性のため 0.8mg/ml まで観察)
- + S9mix 3 時間処理 0 時間回復群：2.5mg/ml
- S9mix 44.2 時間処理群：0.8mg/ml(細胞毒性のため 0.6mg/ml まで観察)
- + S9mix 3 時間処理 0 時間回復群：2.75mg/ml

被験物質はアンモニウム塩

28 日間
反復投与

投与方法

混餌投与

純度

不明

毒性試験 5)【審議 済み】	用量	30, 100, 300, 1000, 3000, 10000, 30000 ppm
	死亡	10000 : 5/5・ 5/5、 30000 : 5/5・ 5/5
	NOEL	30 ppm 未満 [1.5mg/kg/day 未満]
	推定根拠	絶対重量(肝 : 30 以上 ・1000 以上) 相対重量(肝 : 30 以上 ・3000) 組織学的所見(肝 - 好酸性変化・壊死を伴った肝細胞肥大 : 30 以上)
	他の毒性	体重 : 100 以上 摂餌量 : 1000 以上
	回復性	実施せず
	備考	被験物質はアンモニウム塩
90 日間 反復投与 毒性試験 6)【審議 済み】	投与方法	混餌投与
	純度	不明
	用量	5 投与群 (10, 30, 100, 300, 1000ppm) (推定摂取量 : 0.5 , 1.5 , 5 , 15 , 50 mg/kg/day)
	死亡	(100 : 1/5, 300 : 1/5)
	NOEL	10 ppm (0.5 mg/kg/day)
	推定根拠	絶対重量 (肝↑ : 30 以上) 血液学的検査 (RBC↓ : 30 以上)
	他の毒性	体重↓ : 1000♂ 相対重量 (肝↑ : 300 以上) 血液生化学的検査 (BUN↑・AIP↑ : 100 以上) 組織学的所見 (肝 - 巣状 ~ 多巢性肝細胞肥大・肝細胞及び類洞上皮細胞に黄褐色色素沈着・広汎性類洞鬱血 : 100 以上 、 肝 - 肝細胞壊死 : 100 以上♂・300♀)
	回復性	実施せず
備考	被験物質はアンモニウム塩	
小核試験 7) 8)	陰性	純度不明・溶媒(脱イオン水)・Crl:CD-1(ICR)BR マウス・1 群雌雄各 5 匹・ 投与量(1250, 2500, 5000mg/kg)・骨髓細胞・ 被験物質はナトリウム塩
	陰性	純度不明・溶媒(脱イオン水)・Crl:CD-1(ICR)BR マウス・1 群雌雄各 5 匹・ 投与量(498 , 995 , 1990mg/kg)・骨髓細胞・ 被験物質はアンモニウム塩

<p>他の毒性 10)11)</p>	<p>反復投与 アカゲザル (3, 10, 30, 100 mg/kg/day 強制経口投与) 90日間試験、 純度 不明 NOEL : 3 mg/kg/day 推定根拠 一般状態 (食欲不振・黒色便 : 10 以上) 他の毒性 体重↓ : 30 以上 一般状態 (不活発・顔面蒼白及び浮腫 : 30 以上) 血液学的検査 (PT↑・APTT↑ : 30) [100mg/kg 群は全例死亡] 組織学的所見 (副腎 - びまん性脂肪枯渇 : 30 以上♂♀ 骨髄 - 細胞密度 : 30 以上♂♀ 脾及びリンパ節 - リンパ濾胞の萎縮 : 30 以上♂♀) 被験物質はアンモニウム塩</p>
	<p>催奇形性試験 SDラット 4投与群(0.05, 1.5, 5, 150 mg/kg/day 強制経口投与)[妊娠6~15日投与] 純度(不明) NOEL : 5 mg/kg/day 【推定根拠】母体重↓、骨化遅延 : 150 【他の毒性】着床所見に異常は見られなかった。催奇形性はみられなかった。 児の眼レンズに対する影響も見られなかった 被験物質はアンモニウム塩</p>

備考	<p>参考文献</p> <p>1)Final Report, Mutagenicity Test with T-6342 in the Salmonella-Eschericia Coli / Mammalian - Microsome Reverse Mutation Assay with a Confirmatory Assay, Corning Hazelton,Study No.1703073-0-409,3M Ref.No.FC-1090,L13364,F11426,Lot1,sodium perfluorooctane</p> <p>2)Final Report, Mutagenicity Test on T-6342 Measuring Chromosomal Aberrations in Chinese Hamster Hamster Ovary(CHO)Cells:with a Confirmatory Assay with MultipleHarvests.CorningHazelton,StudyNo.17073-0-437CO,3MRef.No.FC-1090,L13364,F11426,Lot1,sodium perfluorooctanoate</p> <p>3)Final Report, Mutagenicity Test on T-6342 Measuring Chromosomal Aberrations in Human Whole Blood Lymphocytes with a Confirmatory Assay with Multiple Harvests, Corning Hazelton, StudyNo. 17073-0-439CO, 3MRef. No. FC-1090, L13364, F11426, Lot1, sodium perfluorooctanoate</p> <p>4)Final Report, Mutagenicity Test with T-6564 Measuring Chromosomal Aberrations in Chinese Hamster Ovary(CHO) Cells: with a Confirmatory Assay with Multiple Harvests, Corning Hazelton, Study No. 17750-0-437CO, 3M Ref. No. FC-1015, L13167, straight-chain APFO</p> <p>5)Final Report, 28-Day Oral Toxicity Study with FC-143 in Albino Rats, Industrial Bio-Test Labs, Study No.8532-10654, 3M Reference No.T-1742CoC,Lot269</p> <p>6)Final Report, Ninety Day Subacute Rat Toxicity Study on Fluorad Fluorochemical FC-143,Intl R&D Corp,Study No.137-089,3M Reference No. T-3141</p> <p>7)Final Report, Mutagenicity Test on T-6342 in an In Vivo Mouse Micronucleus Assay, Corning Hazelton, Study No. 17073-0-455, 3M Ref. No.FC-1090, L13364, F11426, Lot 1, sodium perfluorooctanoate</p> <p>8)Final Report, Mutagenicity Test on T-6564 in an In Vivo Mouse Micronucleus Assay, Corning Hazelton, Study No. 17050-0-455, 3M Ref. No.FC-1015, L-13167, strait-chain APFO</p> <p>9)FinalReport,Ninety Day Subacute Rhesus Monkey Toxicity Study, Intl R&D Corp, Study No. 137-090</p> <p>10)FinalReport, Oral Teratology Study of T-2998 CoC in Rats, Riker Labs, Study No.0681TR0110 with Amendment to Final Report and Protocol</p>
人健康影響判定根拠	Ames 及び染色体異常試験は陰性であるが、28 日間反復投与毒性試験において NOEL1.5 mg/kg/day 未満 (90 日間反復投与毒性試験においては NOEL0.5mg/kg/day) であることから、第二種監視化学物質相当。

藻類生長 阻害	<p>生物種：<i>Pseudokirchneriella subcapitata</i></p> <p>11)</p> <p>被験物質：PFOA >96.5%、C6,C7,C9 ペルフルオロ同族体 <3.5%</p> <p>試験法：EPA-TSCA、GLP 試験</p> <p>試験方式：止水式</p> <p>試験濃度：32、63、130、250、500 mg/L (設定値)</p> <p>濃度の実測は行っていない。</p> <p>助剤：イソプロパノール (各試験区において、被験物質と同量)</p> <p>96hEC50(cell density)=90mg/l, (設定値として)</p> <p>96hErC50=90mg/l, (設定値として)</p> <p>96hNOECr=63mg/l (設定値として)</p> <p>63mg/L 以下の濃度区では 96h 平均生長速度の阻害は認められなかった。</p> <p>130mg/L 以上の濃度区における藻類は増殖しなかった。</p> <p>130mg/L 以上の濃度区における pH は 2.9 ~ 4.1 であった。</p> <p>12)</p> <p>被験物質：30%直鎖型 PFOA アンモニウム塩の、水を 80%含む混合物</p> <p>試験法：OECD TG201、非 GLP 試験</p> <p>試験方式：止水式</p> <p>試験濃度：210、430、830、1670、3330 mg/L (設定値、混合物として)</p> <p>濃度の実測は行っていない。</p> <p>助剤：なし</p> <p>96hEC50(cell count)=1980mg/L (設定値、混合物として)</p> <p>96hErC50>3330mg/L (設定値、混合物として) (最高試験濃度区においても阻害率が 50% に満たず、ErC50 が計算されなかった。)</p>
------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>ミジンコ 急性遊泳 阻害</p>	<p>生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 13)</p> <p>被験物質：PFOA >96.5%、C6,C7,C9 ペルフルオロ同族体 <3.5% 試験法：EPA-TSCA、GLP 試験 試験方式：止水式 試験濃度：65、110、180、300、500 mg/L (設定値) 濃度の実測は行っていない。 助剤：イソプロパノール (各試験区において、被験物質と同量) 48hEC50= 360 mg/l</p> <p>14)</p> <p>被験物質：PFOA アンモニウム塩 <45%、水 50%、不活性ペルフルオロ化合物 <3%、C5 又は C7 ペルフルオロ類似物 1~2% 試験法：OECD TG202(acute)、非 GLP 試験 試験方式：止水式 試験濃度：150、250、400、600、1000 mg/L (設定値、混合物として) 濃度の実測は行っていない。 助剤：なし 48hEC50= 584 mg/l (設定値、混合物として)</p> <p>15)</p> <p>被験物質：30%直鎖型 PFOA アンモニウム塩の、水を 80%含む混合物 試験法：EPA-TSCA、非 GLP 試験 試験方式：止水式 試験濃度：430、730、1200、2000、3330 mg/L (設定値、混合物として) 濃度の実測は行っていない。 助剤：なし 48hEC50= 1200 mg/l (設定値、混合物として)</p>
-----------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

魚類急性毒性	<p>生物種：ファットヘッドミノー <i>Pimephales promelas</i> 16)</p> <p>被験物質：PFOA アンモニウム塩 <45%、水 50%、不活性ペルフルオロ化合物 <3%、C5 又は C7 ペルフルオロ類似物 1~2%</p> <p>試験法：OECD TG203、GLP 試験</p> <p>試験方式：止水式</p> <p>試験濃度：150、250、400、600、1000 mg/L (設定値、混合物として) 濃度の実測は行っていない。</p> <p>助剤：なし</p> <p>96hLC50 1000 mg/l (設定値に基づく。混合物として)(試験最高濃度においても影響が認められなかった。)</p> <p>17)</p> <p>被験物質：PFOA >96.5%、C6,C7,C9 ペルフルオロ同族体 <3.5%</p> <p>試験法：OECD TG203、GLP 試験</p> <p>試験方式：止水式</p> <p>試験濃度：65、110、180、300、500 mg/L (設定値) 濃度の実測は行っていない。</p> <p>助剤：イソプロパノール (各試験区において、被験物質と同量)</p> <p>96hLC50= 140 mg/l (暴露開始 24h において、180mg/L 以上の濃度区で全ての個体が死亡した。その他の影響は認められなかった。) 180mg/L 以上の濃度区における pH は 3.0~4.6 であった。</p> <p>18)</p> <p>被験物質：30%直鎖型 PFOA アンモニウム塩の、水を 80%含む混合物</p> <p>試験法：非 GLP 試験</p> <p>試験方式：止水式</p> <p>試験濃度：530、830、1330、2100、3330 mg/L (設定値、混合物として) 濃度の実測は行っていない。</p> <p>助剤：なし</p> <p>96hLC50= 2470 mg/l (設定値、混合物として)</p>				
生態影響判定根拠	<p>藻類生長阻害試験 () において 96hNOECr=63mg/L (被験物質の酸性度の影響を考慮した場合、より大きい値になることが考えられる。) であり、ミジンコ急性遊泳阻害試験 () において 48hEC50= 360 mg/l であり、魚類急性毒性試験 () において 96hLC50= 140 mg/l (被験物質の酸性度の影響を考慮した場合、より大きい値になることが考えられる。) であることから第三種監視化学物質相当でない。</p>				
環境調査 1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	H14	60/60	0.00033-0.10 µg/L	(0.00004)
	大気	H16	60/60	0.22~5,300pg/m ³	(0.14)
	食事	H16	10/50	nd~0.024ng/g (生重量)	(0.010)

備考	<p>1 平成 17 年度(2005 年度)「化学物質と環境」(環境省環境保健部環境安全課)</p> <p>対水溶解度 : 3.3g/L (20)</p> <p>以下の参考文献は、過去の化学物質審査小委員会 (第 10 回、平成 14 年 1 月 11 日開催) で示されたものである。</p> <p>11) Ward J.T., Magazu P.J., Boeri L.R., Growth and reproduction toxicity test with N2803-3 and the freshwater Alga, <i>Selenastrum capricornutum</i>, T. R. Wilbury Laboratories, Study number 893-TH, Submitted to 3M Company St. Paul, Minesota 55144, (1996) (GLP: Yes)</p> <p>12) Ward J.T., Novius J., Boeri L.R., Growth and reproduction toxicity test with FC-1015 and the freshwater Alga, <i>Selenastrum capricornutum</i>, T. R. Wilbury Laboratories, Study number 1029-TH, Submitted to 3M Company St. Paul, Minesota 55144, (1996) (GLP: No)</p> <p>13) Ward J.T., Magazu P.J., Boeri L.R., Acute toxicity of N2803-3 to the Daphnid, <i>Daphnia magna</i>, T. R. Wilbury Laboratories, Study number 892-TH, Submitted to 3M Company St. Paul, Minesota 55144, (1996) (GLP: Yes)</p> <p>14) Ward J.T., Boeri L.R., Static Acute Toxicity of FX-1003 to the Daphnid, <i>Daphnia magna</i>, EnviroSystems Division Resource Analysts, Study number 9013-3 (1990) (GLP:Yes)</p> <p>15) Ward J. T., Nevius J., Boeri L.R.. Acute toxicity of FC-1015 to the Daphmid, <i>Daphnia magna</i>, T. R. Wilbury Laboratories, Study number 1030-TH, Submitted to 3M Company St. Paul, Minesota 55144, (1996) (GLP: No)</p> <p>16) Ward J.T., Boeri L.R., Static Acute Toxicity of FX-1003 to the Fathead Minnow, <i>Pimephales promelas</i>, EnviroSystems Division Resource Analysts, Study number 9014-3 (1990) (GLP: Yes)</p> <p>17) Ward J.T., Magazu P.J, Boeri L.R., Acute toxicity of N2803-3 to the Fathead Minnow, <i>Pimephales promelas</i>, T.R. Wilbury Laboratories, Inc., Study number 891-TH, Submitted to 3M Company St. Paul, Minesota 55144, (1996) (GLP: Yes)</p> <p>18) Ward J.T., Novius J., Boeri L.R., Acute toxicity of FC-1015 to the Fathead Minnow, <i>Pimephales promelas</i>, T.R. Wilbury Laboratories, Inc., Study number 1031-TH, Submitted to 3M Company St. Paul, Minesota 55144, (1996) (GLP: No)</p>
----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------